



うになりました。(コルチゾンの薬効のせいだったかもしれません)  
検査の入院は12日間でした。

- 1-3 退院のときに診断の病名を担当医の方に伺いました結果が標題のも  
のです。1957年に Barber が名付けたものです。

「比較的高齢な人の両側の頸、肩、腰帯、上腕、大腿などの部分に痛み  
とこわばり (Stiffness) をきたす筋痛症候群(myalgic syndrome)」  
〔内科学用語集第5版(1998)〕

私にはこの Stiffness が良く判りませんでした。

- 1-4 タンパク質のレベルで各種の老人病の文献整理をしてきた立場から、  
早速調査に取り掛かりました。

Merck Manual of Medical Information(2003) (2nd Home Ed.) p  
388) では比較的丁寧に解説してありました。イギリスでは50歳  
以上で起こり始める病気で、10万人あたり600人くらい、白人集団  
に多く、女性は男性の2倍くらい。リウマチ系の疾患の中に分類され  
ています。この数字から見ると珍しい病気の様ですし、日本人には  
少ないといわれています。しかし、これはデータが取られていない  
というだけで実際には良く判らないらしいのです。担当医の意見で  
は、日本ではあまり珍しくない病気ということでした。日本での数  
字がはっきりしません。診断基準もはっきりしない病気の様ですが、  
大阪大学医学部免疫アレルギー内科では一応の診断基準を掲げてい  
ます。慶応病院では200人くらいとの外来患者があるという話も  
ありました。このようにリウマチ性の疾患に分類され、また、リウ  
マチ系の名前がついていますが、この病気はリウマチとは関係が無い  
ようです。

日本語の文献が非常に少ないのですが、

「リウマチ性多発筋痛症」—最近の知識に学ぶ—

柳瀬 敏幸著 病気のプロフィール No.22(1998)

という解説が見つかりました。

この記述によれば私の症状はぴったりで、プレドニゾン換算量15  
mg/day 投与の治療方針もぴったりでした。治癒経過もほぼ記述通り  
のものでした。

- 1-4 上記のような不十分なデータから医師たちは上記のような疾患の  
診断にどのような経路で到達したのか? 担当医に聞く機会が無か  
ったのですが、後日、初めの検査に当たった医師が東京女子医科大  
学の出身であることを知り、一方、下記の新聞記事を見て、或る程  
度納得したところです。東京女子医大では30年前に既に膠原病リ

ウマチ通風センターが設立されているそうです。

日本経済新聞 3月29日(木)(夕刊) 9面

### 「リウマチ 外科と薬物連携」

1-5 リウマチ性多発筋痛症は急激に起こるものと、ゆっくりと起こるものがあるといわれています。このあたりを自己免疫疾患の研究の流れに沿って考えてみたいと思います。自己を攻撃する抗体はゆっくりと10年もの時間を経て、できあがってきます。

「自己抗体で病気を予測する」 A.L. ノトキンス

日経サイエンス(6)(2007) p. 15

遺伝情報に基づいて合成されたタンパク質はそれぞれいろいろの寿命を持っています。長い寿命を持つものはそれぞれの環境に応じて科学的に変化します。変化したタンパク質は異物であるので抗体が作られ攻撃をうけます。同時に、正常タンパク質は、これと似た同様の **Epitoph** を持って居ますので、ゆっくりと攻撃されるようになります。

かつて、カルモヂュリンというタンパク質を研究していたときに其の抗体作りに苦労したことがあります。このタンパク質はいろいろの動物で同じアミノ酸配列構造を持っていたため他の動物で抗体を作ることが出来なかったのです。そこで、少し化学変化させたタンパク質に対して抗体を作ると、正常のタンパク質にも反応する抗体ができたのです。

上記の疾患の場合でいうと、ゆっくりと抗体の量が増えていき、その時々で、小さな発作と寛解と繰り返しながら進行します。そしてある閾値を越えたときに大きな痛みという発作を起こし、初めて病気の存在を知ることになります。更に、これを通り越して、組織、機関的に変化してしまったときには薬品では治らず、手術などが必要になるのではないのでしょうか。この緩やかな進行のとき、病気を感じては居ないが、基本的な異常、こわばりを感じていたようです。例えば、文字を書くときのぎこちなさ、少し長い距離を歩くときの疲れ具合、などです。このようなことから考えてみるとこの病気はもっと多くの人々に起こっていて、適切な治療がなされていないのではないのでしょうか。

## 2) バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル

No. 044 送付先 654〔奥山〕+24〔荒尾〕=678

### 3) 第37回 定例会のお知らせ

\*\*\*\*\*

## バイオテクノロジー標準化支援協会 第37回定例会

\*\*\*\*\*

日時 2012年4月27日(金) 午後1時30分—4時30分

\* (定例会は会員でも会員でなくても自由に出席して、自由に発言も出来ます。)  
友人同士誘い合わせてご出席ください。出席するのが面倒な方はメールでご意見をお寄せください。

場所 八雲クラブ(ニュー渋谷コーポラス 10階・1001号)(首都大学東京同窓会)

住所: 渋谷区宇田川町 12-3

電話番号: 03-3770-2214

(地図はSABS(NPO)ホームページにあります。)

## 話題

### 不織布

古くから、不織布の代表と考えられてきたフェルトの話は今ではあまり取り上げられることはなくなりました。現在では人工の線維材料によるものが中心です。

#### ① 構成材料

- アラミド繊維 - 強度や耐久性を要求される用途
- ガラス繊維
- セルローズ繊維
- ナイロン繊維 - 一般的な原料繊維
- ビニロン繊維 - 耐候性を要求される土木資材用途

- ポリエステル繊維 - 衣料用や工業資材など耐久性を要求される用途
- ポリオレフィン繊維 - 医療用途。軽さを求められる衣類用途
- レーヨン繊維 - 吸水性が求められる用途

可塑性樹脂を不織布状に形成したものは、通気性を維持したまま布を接着するホットメルト[接着剤](#)として利用される。

- 低密度ポリエチレン樹脂 - 一般的な不織布用ホットメルト接着剤用途
- エチレン酢酸ビニル樹脂 - 一般的な不織布用ホットメルト接着剤用途
- 合成ゴム - 伸縮性や弾性を必要とする不織布用ホットメルト接着剤用途
- 共重合ポリアミド樹脂 - 接着強度を求められる衣料向け不織布用ホットメルト接着剤用途
- 共重合ポリエステル樹脂 - 合繊(ポリエステル)衣料向け不織布用ホットメルト接着剤用途

## ② 標準規格

- 1) JIS L0222:2001 不織布用語  
ISO 9092—Textile-Nonwoven-Definition  
ISO/DIS11224:1998 Textile-Nonwovens-Web formation and bonding-Vocabulary
- 2) JIS L1912:1997 医療用不織布試験方法
- 3) JISL1913:2010 一般用不織布試験方法

紙と不織布との間には定義の上では違いがなくなっていました。  
布と網との間はどうでしょうか。

## ③ 応用範囲 -いつの間にか多くの領域で使用されています。規格化は遅れています。

- 医療用 - しっふ基材、ガーゼ
- 衣料用 - 紳士服芯地、婦人服芯地、防寒用中入綿、ブラジャーカップ
- 衛生材料用 - おしぼり、化学ぞうきん、生理用品、マスク、紙おむつ
- カーペット用基材
- 建材用 - 吸音ボード
- 工業用 - 工業用ワイパー、リチウムイオン電池セパレーター

- 自動車用 - 内装材、エアエレメント、キャビンフィルター、防音防振材
- テープ用基材 - 両面テープ
- 農業・土木資材用 - 緑化用排水シート、蒔種シート
- **フィルター用** - 空気清浄機フィルター、防塵フィルター、ろ過フィルター

#### ガラス、ステンレス

- 包装資材用
- 日用雑貨 - フローリングワイパー、コーヒーフィルター、水切り袋、ティーバッグ、灰汁取り、キッチンペーパー、CD、DVD等の簡易ケース
- 手芸用 - キルト綿

- ③ ホームページに **e-library** のリストがあります。 会員の方はその中から希望のものをご指摘ください。